

プラント状況確認結果(平成26年6月10日～6月17日)

平成26年 6月 17日

福島県原子力安全対策課

○ 平成26年6月10日～6月17日12時までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所1～4号機のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりです。

⇒ この期間において、不具合等の連絡はありませんでした。

平成26年5月21日10時25分、地下水バイパス揚水井から汲み上げ、一時貯留タンクに貯水していた地下水バイパス水の排水を開始しました。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

また、平成25年11月18日15時18分、4号機使用済燃料プールからの燃料取出し作業が開始しました。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

(1) プラント状況(6月17日午前5時)

場所	目的	監視項目	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量 (m ³ /h)	4.3	4.5	4.4	—
		圧力容器 下部温度(°C)	24.5	33.1	31.0	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 ^{※3} (Bq/cm ³)(A系)	1.67×10 ⁻³	検出限界未満	検出限界未満	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (A系)(体積%)	0.00	0.06	0.06	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	26.0	23.4	23.2	24.4

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉に燃料が入っていないため空欄。

※3 保安規定に定める制限値は、1 Bq/cm³以下である。

(2) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(6月17日午前10時)

最小 1.5(MP-6)～最大 4.5(MP-3) マイクロシーベルト/時 ⇒[計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(6月16日採取分)

最小 検出限界未満(物揚場前、港湾口、6号機取水口前)～最大 44(4号機スクリーン(シルトフェンス内側)) Bq/ℓ

(4) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(6月16日採取分)

5,6号機放水口北側に30m : 1.2 Bq/ℓ

1～4号機放水口から南側に1.3km : 検出限界未満 ※検出限界値は0.82 Bq/ℓ

(5) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果(6月16日採取分)

西門 : 検出限界未満 ※検出限界値は約1×10⁻⁷ Bq/cm³

(6) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(6月16日採取分)

最小 検出限界未満(4号機) ~ 最大 0.24(2号機) Bq/cm³

【参考事項】

6月16日 5時14分頃、発電所周辺町村で“震度4”の地震が発生し、現場パトロールを実施しましたが、プラント状況及びモニタリングポスト指示値に有意な変動はありませんでした。なお、福島第一原子力発電所で観測された加速度の最大値は、6号機原子炉建屋において21.0ガルでした。

(問い合わせ 024-521-1917)